

視覚障がい者のための「音声コード」の利用促進について

Q 視覚障がい者の情報取得サポートとして、紙媒体に掲載された印刷情報を、「音声コード」を利用して公的な通知などを行っている自治体もあるが、当町の考えを伺いたい。

A ①音声コードとは

「音声コード」とは、紙面の文書「印刷情報」を、音声に変換するものです。文字数800字程度の情報を変換する事が可能で、音声を読み上げ、情報を売る事ができます。

②補助制度

一般的な「音声コード」としては、専用の読み上げ装置が必要な「SPコード」がございます。こちらは、障害者総合支援法の地域生活支援事業において、情報・意思疎通支援用具として読み上げ装置購入の補助制度がございませす。課税世帯は自己負担1割、非課税世帯は自己負担無しで購入する事ができます。境町での交付実績は今のところありません。

③ユニボイスについて

近年、音声コードの専用の読み上げ装置が不要な、スマートフォ

ンアプリで対応可能な「音声コード」、「ユニボイス(UniVoice)コード」が開発されておりませす。

この「ユニボイスコード」は、NPO法人日本視覚障がい情報普及支援協会が開発・管理している専用ソフトで作成し、スマートフォン等のアプリで読み上げることが出来ます。文書(文字)を、スマホのアプリから読み取り(QRコードのようなもの)、音声に変換(読み上げる)するものです。専用ソフトのライセンスに関しては、自治体に対しては無料貸与しているとの事です。

茨城県障害福祉課によると、県内の利用実績は茨城県、水戸市、高萩市、北茨城市、常陸太田市、牛久市、阿見町、日立市、古河市の9自治体となっております。本年度に導入済の古河市に確認したところ、市の障害福祉課では、視覚に障害がある方にユニボイスコードを印刷した会議の案内通知を出した実績があるとのことですので、さらに先行する市町村の状況を調査するなどして、研究してまいりたいと考えております。

(福祉部長)

議席2番

染谷 直人 議員



スポーツを核としたまちづくりの展望について

Q スポーツを核としたまちづくりで、境町はどのような活性化をするのか、当町の考えを伺いたい。

A 当町では、オリンピックレガシーとして、ホッケー場やアーバンスポーツパーク等を整備し、それらを用いた交流人口の拡大に力を入れています。BMX、インラインスケート等のスペシャリストを「地域おこし協力隊」として雇用しており、安床隊員(インラインスケート)等のトップアスリートが多く居住することで、これらのスポーツが地域に根付くとともに、ロサンゼルスオリンピックには境町出身の選手が出ることを目標にしており、町民の誇りや幸福度の増加にもつながると考えませす。

(教育次長)

実際にオリンピック強化選手の移住も増えてきております。

また、町の全年齢対象の各スポーツ施設の体験会や学校のクラブ活動、部活の地域移行など、スポーツを核としたまちづくりを町全体に広げてまいりたいと考えております。

(企画部長)

英語教育について

Q 英語教育のこれまでの取組みと効果について、当町の考えを伺いたい。

A スーパーグローバルスクール業として、ALT24名を町独自で配置し、先進的英語教育を実施。また、英語検定補助事業として小6・中3全員を対象に検定料の全額補助を行っており、中3の英検3級保有率は44・7%と導入前の5倍に増加。また、姉妹都市ホノルル市に姉妹小学校・中学校を設置し、英語での子供たちの交流の機会を提供。また、SGS事業の効果もあり、当町への英語教育を目的として移住も多くなっております。このことから、6年経ち、SGS事業の効果が数値でもあらわれております。